

The Global Production Engineering Company
Hirata

The Global Production Engineering Company
Hirata
CSR報告書 2013
Corporate Social Responsibility Report

Corporate Social Responsibility Report



編集方針

平田機工の事業活動と、ステークホルダーの皆さまとのかかわりについて広くお伝えするため、今回よりCSR報告書を発行することとしました。

本報告書を通して、ステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを密にすることにより、今後活動のレベルアップを図っていきます。皆さまからの忌憚ないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

報告範囲

対象期間：2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)

対象組織：平田機工株式会社 単体(業績推移については連結業績を付記)

発行時期 2013年8月(次回発行予定2014年8月)

参照したガイドライン GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン3.1」
環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

お問合せ先 品質管理部 TEL:096-272-3277

FAX:096-272-3345

総務部 TEL:096-272-5558

FAX:096-272-3618

ホームページ <http://www.hirata.co.jp/>

目次

1. トップメッセージ	2
2. 経営理念・CSR方針	3
3. 会社・事業概要	4
4. 社会性報告	
・お客さまとともに	8
・従業員とともに	9
・お取引先とともに	11
・株主・投資家とともに	12
・地域社会とともに	13
5. 環境報告	
・環境マネジメント	14
・事業活動の環境配慮	16
・製品の環境配慮	17
6. マネジメント	
・コーポレート・ガバナンス	19
・コンプライアンス、企業倫理	20
・リスクマネジメント	22

1 トップメッセージ

Corporate Social Responsibility Report



代表取締役社長

平田雄一郎

Yuichiro Hirata

私たち平田機工株式会社は、1951年の会社設立以来、「人を活かす」「技術革新に努める」「人間尊重を貫く」「創造的人生を拓く」「社会に貢献する」「顧客を優先する」という経営理念を定め、人を尊重する姿勢を貫き、常に時代のニーズに応え、製品の品質や安全性を追求してまいりました。

新たな市場、新たな技術に常に挑戦し続け、開発・提案から設計、部品製造、組立・検証、生産立ち上げ、保守・サービスまで一貫して対応できる体制を構築した当社は、世界中のさまざまな産業分野のお客さまに、最適な生産システムをご提案、ご提供できる生産エンジニアリングメーカーとして評価をいただいております。

当社のグローバルな対応能力は、お客さまの海外進出を実現し、当社のエンジニアリング能力は、日本国内においても、お客さまのものづくり、お客さまの付加価値を生み出す生産システムを構築いたします。

コンプライアンスおよび適時・適切な情報開示など公平・公正な事業活動を営むことで、お客さまのみならず、従業員、調達先などのお取引先、株主・投資家、地域社会の方々など、全てのステークホルダーの皆さまとの間に強い信頼関係を築いてまいりました。この信頼関係の下に持続的な発展をし続ける企業であることが、社会の公器としての義務であり存在意義であると考えております。

今後も、社内においては多様な人材の能力開発と機会提供により働く喜びが感じられる職場を創出してさらなる事業発展に取り組むとともに、社会の技術発展に寄与し、環境保全についても企業としての責任を果たしてまいります。

今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

The Global Production Engineering Company

Hirata

2 経営理念・CSR方針

平田機工は、経営理念、CSR方針のもと、事業活動や従業員一人ひとりの活動を多くのステークホルダーと互助・協調しながら、持続的に社会の発展に寄与します。



CSR方針

1. 技術革新により、社会の発展に役立つ製品をつくります。

たゆまぬ技術革新により、品質や安全、生産性に対するお客様の想いを実現することで、社会の期待に応えてまいります。

2. 当社に関わる全ての人の人権を尊重します。

当社に関わるひとりひとりの個性と人格を尊重し、従業員が誇りと働きがいをもてる職場をつくります。

3. 関係法令、社会規範および社内規程を遵守し、公正・公平な企業活動を行います。

法令等を遵守し、公正・公平な企業活動を行い、適時・適切な情報開示による透明性を確保します。また、それにより健全な投資環境を維持します。

4. 全てのステークホルダーと適切な関係を構築します。

取引先他、全てのステークホルダーとの互いの信頼の上に適切な関係を構築し、共に持続的な成長ができるよう協力してまいります。

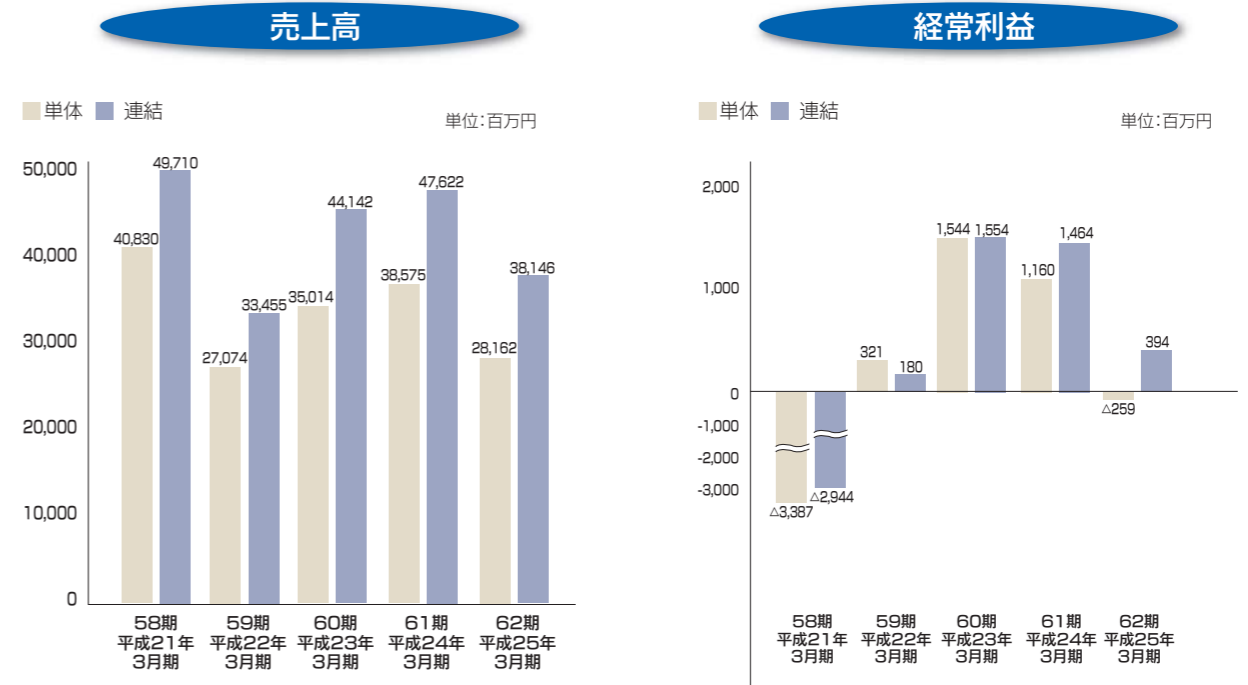
5. 全ての企業活動において環境保全に努めると共に社会に貢献します。

環境保全に努めることで、地域の住民の方々の方々の安全で健康的な生活を守るとともに、積極的に社会に貢献します。

3 会社・事業概要

社名	平田機工株式会社(Hirata Corporation)
本社所在地	〒142-0041 東京都品川区戸越3丁目9番20号 TEL:03-3786-1226 FAX:03-3786-1264
代表者	代表取締役社長 平田 雄一郎
設立年月日	1951年12月29日
決算期	3月31日(年1回)
従業員数	連結 1,888名(うち正社員1,575名) 単体 1,229名(うち正社員1,001名)
資本金	2,633 百万円
株式	東京証券取引所 JASDAQ市場上場(証券コード6258)
発行済株式数	10,756,090株
株主数	2,483人
生産拠点	熊本県:熊本工場、熊本東工場、楠野工場、七城工場 栃木県:関東工場 滋賀県:関西工場 ※2013年3月末現在

業績推移



平田機工は、世界中さまざまな産業分野のお客さまに最適な生産設備をご提供しています。

自動車関連生産設備事業

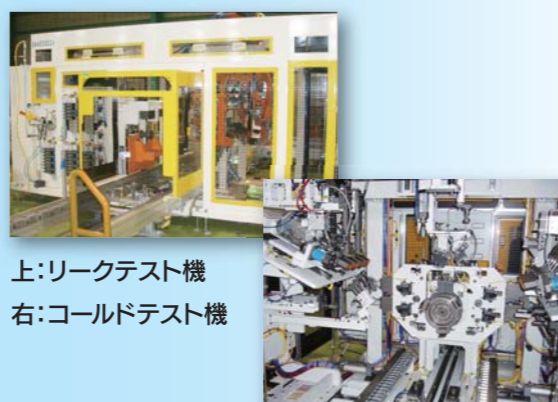
パワートレインと呼ばれるエンジンやトランスミッションなどの動力伝達・駆動系の主要部品をはじめ、それらの制御用コンピュータなどの電子機器、各種センサーなどの車載用電子部品、空調用エアコンプレッサー、ABSブレーキモジュールなど、多岐にわたる組立設備の製造および販売を行っています。

近年では、ハイブリッド車向けのモーターや駆動用インバータの組立など、最先端の部品生産にも対応しています。

自動車関連設備



エンジン組立ライン



上:リークテスト機
右:コールドテスト機



自動車部品組立ライン(イメージ)



ACS-C(自動車部品組立用ユニット)

半導体関連生産設備事業

シリコンウェーハを各種処理装置に取り込むロードポート、大気・真空環境に対応可能なウェーハ搬送ロボットおよびそれらを統合したEFEM(Equipment Front End Module)などを製造・販売しています。

FPD(Flat Panel Display) 関連設備においては、パネル塗布装置「ヘッドコーター」、パネル用ガラス切断装置、ガラス貼合装置などを製造・販売しています。

半導体関連生産設備



EFEM



ウェーハ搬送ロボット

FPD関連生産設備



ヘッドコーター(塗布装置)



ガラス切断装置

家電関連およびその他生産設備事業

薄型テレビ、冷蔵庫、掃除機などの家電や電子・電気機械器具メーカー向けの生産設備を製造・販売しています。高クリーンで高速搬送、製品に合わせた部品の供給方式が選択できるハードディスクの組立や、大型テレビのパネル部分のフレームに、ガラス板・バックライト・プリント配線基板などを組み付けができる設備、システムをご提供しています。

電子部品に組み込む小型コンデンサーの高速組立や、冷蔵庫、エアコン用のコンプレッサーなどさまざまな大きさ、形状の自動組立システムに対応できます。また、自動車用タイヤの搬送設備、製造装置にも対応しています。

家電関連生産設備



冷蔵庫組立ライン



大型テレビ自動組立ライン

電子部品関連生産設備



ACS-MD(モバイル機器組立装置)



コンデンサー組立システム

お客さまとともに

品質保証

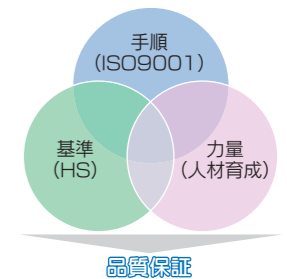
■お客さまにご満足いただくために全社、全過程で取り組む品質保証活動

平田機工では、お客さまに安全で安心してお使いいただける製品やサービスを提供するため、ISO9001を基本とした総合的な品質マネジメントシステムのもと、受注から設計・製造・出荷までの各過程で、品質保証活動に取り組んでいます。また、品質保証の一環として、お客さまへの安全な製品の提供および法規制遵守のため製品安全の活動に取り組んでいます。

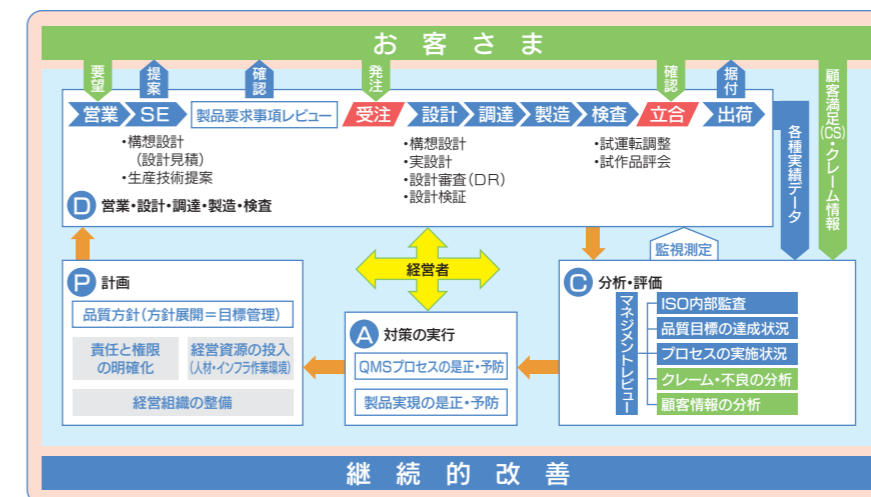
平田機工の品質保証の三大要素

- ① 品質を作り込み・確認する手順
▶ ISO9001 品質マネジメントシステム
- ② 業務を遂行する管理基準、評価する判断基準、設計/施工/製品品質の判断基準
▶ 社内規格・基準を整備(技術的社内規格…Hirata Standard (HS))
- ③ 業務を遂行し評価改善できる力量

以上の三大要素を軸に品質保証に努めています。




品質マネジメントシステム概念図



■平田機工の取り組みに対する評価として


お客さまより平田機工の取り組みに対して、たくさんの評価をいただいております (以下はその1部)。



2006年度:
シャープより
LCDアワード
設備部門賞受賞



2008年度:
トヨタ自動車より
技術開発賞受賞



2011年度/2012年度:
GM社より
「Supplier of the Year 2011」
「Supplier of the Year 2012」受賞

従業員とともに

多様な人材への機会提供

■再雇用への取り組み

60歳以上再雇用者数

単位:人

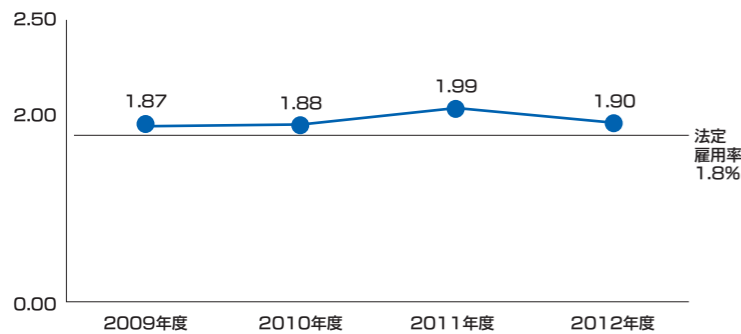
年度	2009	2010	2011	2012
定年退職者	4	7	16	25
再雇用希望者	4	5	11	18
再雇用者	4	5	11	18

2006年度に設けた「再雇用制度」により、定年退職者が引き続きその卓越した知識、経験を活かし、優れた技能、技量を発揮できるよう再雇用契約を結んでいます。再雇用者の希望と契約業務の内容をもとに就業日数や時間を調整、考慮し、各々のライフスタイルに合わせた働き方ができるように努めています。

■障がい者の積極的雇用

障がい者雇用率推移

単位:%



2012年度の障がい者の雇用率は法定雇用率1.8%を上回る1.90%でした。採用については、関連機関主催の説明会への参加、特別支援学校からの実習受け入れなどにより、個人と業務のマッチングを図っています。

能力開発支援

企業の競争力の源泉は「人」です。「人を活かす」という平田機工の経営理念のもと、従業員一人ひとりが成長し、その能力を最大限発揮できる環境をつくるのが経営の最重要課題と考え、中期経営計画にて『「人材育成」をマネジメントの基軸にする』という人事基本方針を掲げました。今後、さらなるグローバル化への対応が求められる中で、計画的な教育訓練、グループ内ローテーションを活性化させ、個人のチャレンジや成長の機会を提供することで、企業の成長、発展を目指します。

2012年度は新入社員研修、課長研修、部次長研修などを中心とした階層別研修を実施しました。特に新

入社員研修では約6か月間の期間でさまざまな部門の実践的な研修で徹底的に現場力を磨き、若手の段階からの育成の強化を図っています。また、専門研修やテーマ研修にも力を入れています。特に、平田機工は受注生産で年間数百本のオーダープロジェクトを実行していることから、プロジェクトを成功させるためのプロジェクトマネジメントスキルが大変重要であり、課長・主任を対象としたプロジェクトマネジメント研修を強化しています。



OJTを受ける新入社員

ワークライフバランス

平田機工では、働きやすい環境を整備し、従業員が自分自身のために自由に時間を使うことができるよう「ワークライフバランス」の実現に向けた取り組みを行っています。具体的には① 育児休職および育児時短勤務、介護休職などの整備と充実、② 時間外労働時間の削減を大きな柱としています。

育児休職については、近年、休職取得後、時短勤務で復職し、通常の勤務に戻るケースが増えており、安心して育児に専念できる制度が定着しています。

また、時間外労働時間の削減については、労使協力

のもと各部門でアイデアを出し合い削減に取り組んでいます。

今後もさらに、育児休職、介護休職制度についての啓発活動や時間外労働時間の削減に取り組み、従業員のワークライフバランスの向上に努めてまいります。

育児・介護休職等取得者数

単位:人

年度	2010	2011	2012	平均
育児休職	16	11	4	10.3
育児時短勤務	19	15	8	14.0
介護休職	2	2	1	1.7

育児支援制度と同僚の理解に感謝

管理本部 法務部 村田 美沙

3人の子どもの出産に際し、育児休暇・育児時短勤務制度を利用し、子どもたちの成長を見守る時間を持つことができました。これも、会社の育児支援制度の充実と、同僚の理解・協力があったのことに感謝しています。仕事と育児の両立は大変ですが、仕事を続けることを理解し、協力してくれる家族のためにもがんばります。



労働安全衛生

平田機工では、「ゼロ災害へ全員参加」を合言葉に、各工場における安全衛生委員会、その上位会議となる全社安全衛生委員会を毎月開催し、組織的な安全衛生活動の推進を行っています。現場では、リスクアセスメントや朝礼時の危険予知訓練の実施を通し、当社・客先工場における作業時の安全確保に努めています。これらの取り組みの結果、2011年度から休業災害ゼロを継続しています。

■安全衛生ハンドブックの配付

安全衛生に関する基礎知識や現場作業のルールをまとめた安全衛生ハンドブックを協力会社も含めた全従業員に配付し教育することで安全作業の徹底を図っています。

■メンタルヘルス研修の実施

全従業員を対象に、メンタルヘルス研修を行っています。従業員一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」というセルフケアの考え方を理解し、ストレスに対処する知識や技法を身につけ、職場や日常生活において実践できるようにすることが狙いです。



ストレスへの対応を学ぶ受講者

お取引先とともに

平田機工では、多様な製品の生産に用いる資材などを購入するにあたり、コスト、納期、品質、サービス、支払条件、信用などの購買条件を総合的に検討した上で適切なサプライヤーを選定しています。

また、サプライヤーとの長期にわたる安定かつ良好な取引を確保するため、常に公平・公正で清廉な関係を保ち、信頼ある協力関係の構築に努めています。

サプライヤーミーティング

平田機工はサプライヤーとの信頼関係構築を目的として毎年サプライヤーミーティングを開催しています。2012年度は6月に開催し、約140社のサプライヤーの皆さまにご出席いただきました。

冒頭、調達担当取締役より、これからは世界の企業が相手になり、お客さまの要求する製品の生産台数が一桁増加するため、短期間に、大量の設備を生産できる仕組みを構築する必要がある、との説明を行いました。

その後、2011年度の業績報告と2012年度の調達方針、2012年度の生産計画の説明を行い、資材・加工・用役の各部門で平田機工の生産活動へ多大な

貢献をされた各1社に、感謝状と記念品を贈り感謝の意を表しました。



会場を埋めるサプライヤーの皆さん

第1回の感謝状を受けとって

SMC株式会社 熊本営業所長 馬場 秀樹さま

第1回の感謝状贈呈先に当社を選定していただき光栄の至りです。

当社が1970年代から納入しているエアシリンダーなどの空気圧機器の品質、コスト、納期それぞれについて評価していただいたようですが、特に短納期への対応や製品のトレーサビリティが確保されている点を重視していただけたものと考えています。

サプライヤーミーティングは平田機工さんの動向をお聞きする機会でもあり、生産計画を立てる上でのありがたい情報入手の場です。また、サプライヤー間の情報交換の場としても有意義です。

感謝状をいただいた喜びの反面、他のサプライヤーの模範にならないといけないプレッシャーも感じておりますが、今後も平田機工さんとの取引を通じて社会に貢献できるよう努めてまいります。



株主・投資家とともに

IR活動

平田機工は、株式の価格形成が公平・公正に行われるためには、適時適切に投資判断情報が提供されていることが前提となると考えており、また、市場の参加者である多数の投資家に対して、投資判断の基礎である重要な会社情報を、公平、均等、正確かつ迅速に提供することが求められると認識しています。

有価証券報告書、四半期報告書などの制度開示関連資料につきましては、企業内容を正確に、かつ適切な時期に開示できるよう、組織体制も整備しており、さらに、重要事実またはそれ以外の重要な会社情報につきましては、正式決定した場合またはその事実が発生後速やかに、当該情報を開示しています。

主なIR活動として、機関投資家など向けの決算説明および第2四半期決算説明会、機関投資家・アナリストなど向けの個別面談も実施しています。

IRツール

法律や金融商品取引所の規定などに基づいて作成する有価証券報告書、決算短信などのほか、平田機工では独自に以下の資料を作成することで、株主・投資家の平田機工の事業などに対する理解を深めていただくよう取り組んでいます。

①決算説明資料・四半期決算説明資料

当該期の決算概要をわかりやすく記載した資料であり、本決算および第2四半期については機関投資家向け決算説明会の資料として使用しています。

②Hirata Report

株主の方向けに事業内容や業績・計画、トピックスなどをわかりやすく記載した報告書であり、本決算および第2四半期決算開示後に発行・郵送しています。

③Fact Book

過去5期分の連結貸借対照表、連結損益計算書、決算指標を和文・英文を併記してまとめた資料です。

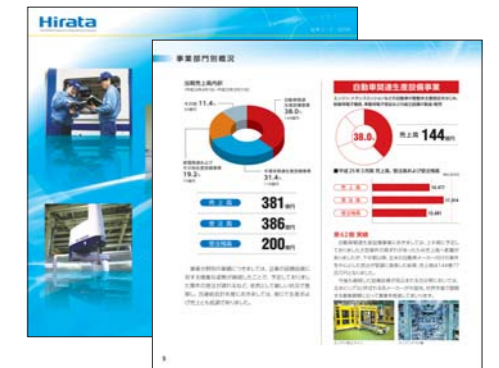
④株主総会説明資料

株主総会において説明に使用する資料です。

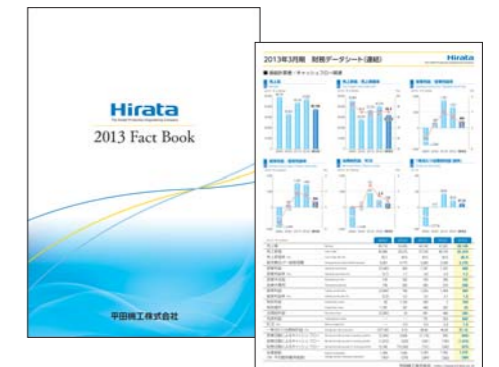
⑤平田機工ホームページ内「株主・投資家の皆さまへ」

株主・投資家の皆さまへの情報を集めたページであり、上記の資料の他、株式に関する情報、個人投資家向けの会社概要情報などを掲載することで、平田機工に対する理解の促進を図っています。

※上記①から⑤の資料は平田機工ホームページに掲載しています。



Hirata Report



Fact Book

地域社会とともに

太陽光発電事業

平田機工は、子会社であり太陽光発電システムの施工を事業とするタイハイテクノス株式会社に熊本工場および熊本東工場の屋根の一部を貸与し、太陽光発電パネルを設置しました。最大出力（容量）は合計1,000kW、いわゆるメガソーラーと呼ばれる規模であり、発電した電力は全てタイハイテクノスが九州電力株式会社に売電しています。年間の発電量は約100万kWhを予測しており、原子力発電所の停止に伴う電力不足対策への寄与および環境負荷低減などの社会貢献の立場から、また敷地内の遊休空間の有効利用とい

う面からも、有意義な取り組みであると考えています。また、2013年度は新たに合計で最大出力1,000kWのシステムを熊本東工場と七城工場に増設する予定であり、既設分と合わせ最大出力は合計2,000 kWとなります。



熊本工場(左)、熊本東工場に設置された太陽光パネル

インターンシップ

平田機工では、「就業体験型」のインターンシップを実施し、学生が就業経験を通じて、「企業で働くことはどういうことか」「勉強してきたことが、どこまで通用するのか」といったことを考える機会を提供しています。

2012年度は、夏期と冬期に高専、大学、支援学校、聾学校より計7名のインターンシップを受け入れました。なお、高校生に対してはインターンシップ前の動機

付け講演を実施するとともに、正しい職業観の育成や進路選択を効率よく進めることができるよう数百名の工場見学を受け入れています。

また新たな取り組みとして、グローバル人材育成のために、海外関係会社へのインターンシップを企画し、各学校に参加を呼びかけています。

寄付・協賛

2012年7月九州北部豪雨による甚大な被害を受けられた被災者の方々への支援のため、会社および従業員、ヒラタユニオンの合同で寄付を行いました。また、2008年から毎年「わたしのまちの〇と×・熊本」環境フォトコンテストに協賛し、環境意識の啓発に努めています。



九州北部豪雨災害被災者への寄付

清掃活動

平田機工では、定期的に各工場・事業所内および周辺地区において、清掃活動および美化活動を継続しています。また、国土交通省のボランティアサポートにも参加しています。



熊本工場入出門に掲示

5 環境報告

環境マネジメント

環境方針

平田機工では環境方針を定め、方針に沿った環境活動の推進を行っています。事業活動、製品・サービスのあらゆる面で環境負荷低減に努めることにより、地球環境保全に貢献します。

(1)ISO(9001/14001)基本方針

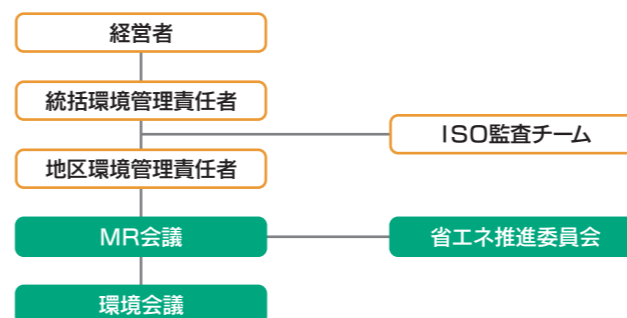
- ①お客様を第一とし、お客様に満足して頂ける高い品質の製品を提供する。
- ②技術革新に努め、環境に配慮した、付加価値の高いオリジナル製品をつくる。
- ③法規・規格を遵守し、安全で使い易い製品をつくる。
- ④EMSとQMSの有効性の継続的な改善を通して、汚染の予防と品質向上に努める。
EMS: Environmental Management Systems (環境マネジメントシステム)
QMS: Quality Management Systems (品質マネジメントシステム)

(2)環境方針詳細

- ①生産エンジニアリングの実現により、ライフサイクルを考慮した環境負荷低減商品の生産に努める。
 - ・製品の省エネ化推進
 - ・リサイクル可能な製品の設計・製造の推進
 - ・製品に使用する有害物質の削減
- ②環境関連の法規、協定、要求事項および必要に応じて設定した自主基準を遵守する。また関係する官公庁との連携・協力関係を構築し、地域に貢献する。
- ③持続可能な社会の構築のために、事業活動および製品の営業、設計、製造、据付、アフターサービスの全生産過程において、技術的、経済的に最大の努力をもって環境保全に努める。
 - ・エネルギー使用量の削減
 - ・廃棄物の削減およびリサイクルの推進
 - ・有害物質の削減・代替推進
 - ・環境問題および環境事故発生の未然防止
- ④環境教育および広報活動の実施により、環境意識の向上を図る。
- ⑤EMSを定期的に見直し、継続的な改善を図る。

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステム推進体制



平田機工では、環境マネジメントシステム(EMS)推進体制を構築し、環境管理責任者の責任と権限のもと、各部門ごとにEMSを推進しています。

年2回開催するマネジメントレビュー(MR)会議において、EMSの検討、見直しを行っています。

また、熊本地区、関東地区および関西地区の生産拠点において、国際規格ISO14001の認証を取得しています。

環境目標

○…達成、△…ほぼ達成、×…未達成

項目	中長期目標(2012~2014年度)	2012年度実績	評価	2013年度活動計画
環境負荷低減商品の提供	環境配慮設計の実施	製品アセスメントを実施し、部品点数、消費電力、有害物質、廃棄物などの削減を行った。	○	製品アセスメントを継続して実施する。
化学物質有害物質対策	グリーン調達の推進	製品含有化学物質管理の実施	△	サプライチェーンでの製品含有化学物質管理を徹底する。
	PRTR法対象物質使用量の削減	2009年度のPRTR法対象物質使用量に対し、実質生産高比10%以上の削減	○	PRTR法対象物質の代替化を進める。
水資源対策	水使用量の削減	2009年度の水使用量に対し実質生産高比5%以上の削減	○	熊本地区において、地下水削減の取り組みを推進する。
地球温暖化対策	エネルギー投入量の削減	2009年度のエネルギー投入量に対し実質生産高比5%以上の削減	○	省エネ設備の導入、エネルギー管理の徹底により、特に電気使用量の削減に注力する。
	CO ₂ 排出量の削減	2009年度のCO ₂ 排出量に対し実質生産高比5%以上の削減	×	
廃棄物対策	産業廃棄物排出量の削減	2009年度の廃棄量に対し実質生産高比5%以上の削減	○	廃油、廃プラスチック、木くずの削減を推進する。

法規制遵守と汚染防止

環境関連法規制の遵守確認をISO事務局およびISO内部監査において定期的実施し、また一部で自主基準を設け、法規制遵守に努めています。

平田機工において、2012年度に環境関連の法規制違反や事故は発生しませんでした。苦情は、熊本工場において騒音苦情が1件発生しましたが、再発防止策を講じ、以降同様の苦情は寄せられていません。

また、2012年度に、熊本工場において保管していたPCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物(コンデンサ3台)を日本環境安全事業株式会社北九州事業所に搬入し、適正処理しました。平田機工が保管するPCB廃棄物は、関東工場のコンデンサ1台であり、適正に管理しています。

ルールを守る重要性

デバイスセンター 加工部 坂田 陽一

公害防止管理者、危険物取扱責任者として、法規制に基づきプレス機の点検や危険物貯蔵所の入出庫管理を行っています。幸いこれまで事故などはありませんが、化学工場火災などのニュースを見聞きすると、ルールを守って作業することの重要性を強く感じます。今後も従業員一丸となり、環境汚染防止に努めていきます。

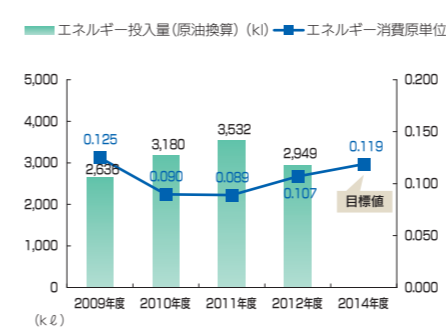


事業活動の環境配慮

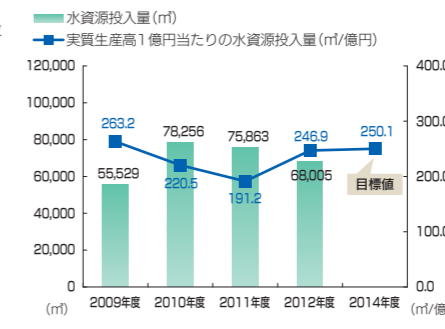
環境パフォーマンス

事業活動により生じる環境影響を把握し、中長期目標(2012-2014年度)達成に向けて環境負荷の低減に努めています。

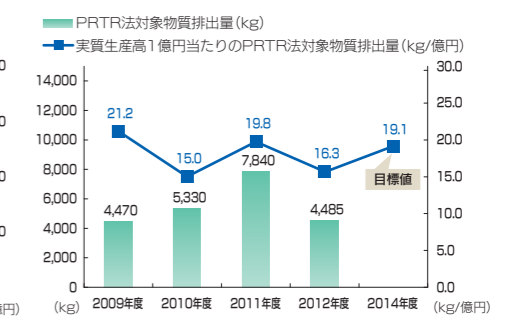
エネルギー投入量



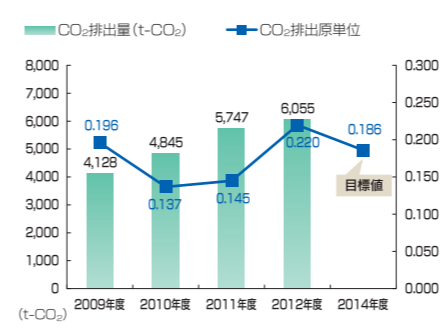
水資源投入量



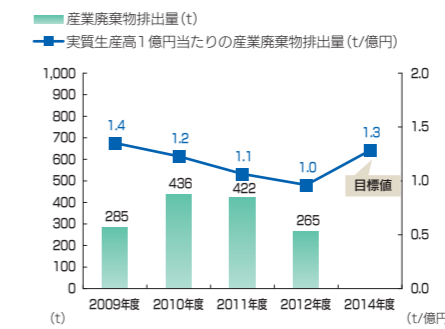
PRTR法対象物質排出量



CO₂排出量



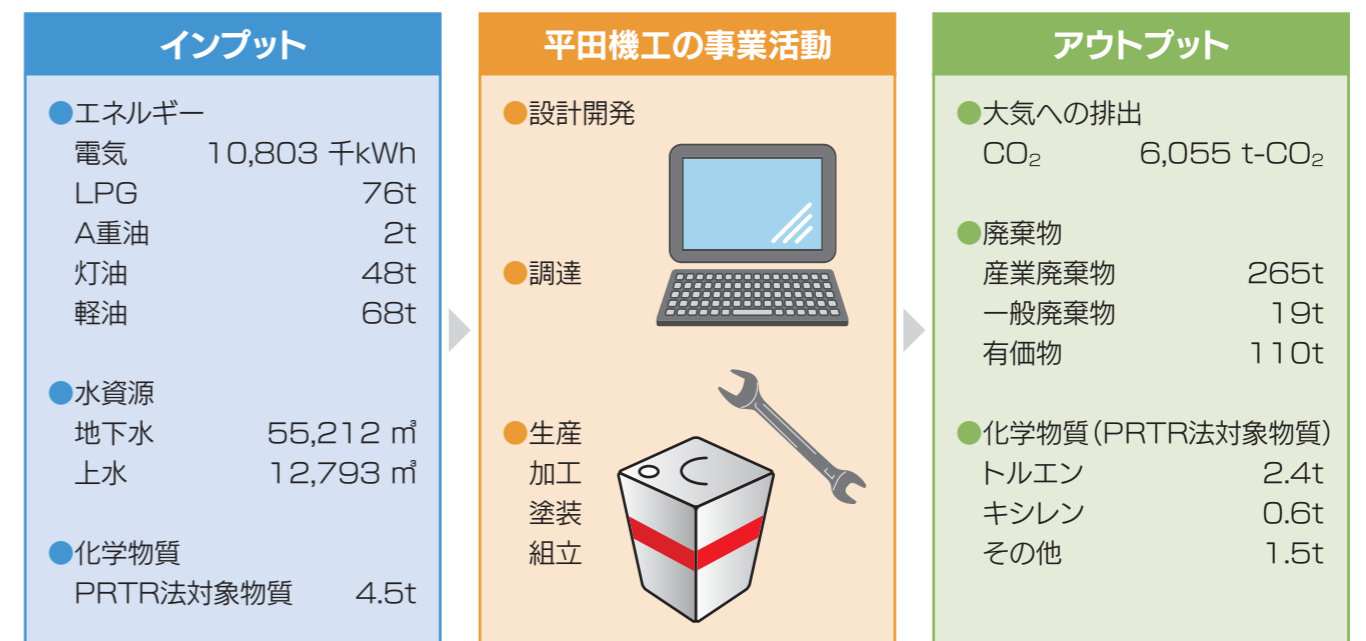
産業廃棄物排出量



※エネルギー使用、CO₂排出原単位の算出には実質生産高を使用しています。
※各グラフには、中長期目標の最終年度である2014年度の目標値を記載しています。

マテリアルバランス

2012年度の環境負荷は以下の通りです。



製品の環境配慮

環境配慮製品

持続可能な社会の実現のために、ライフサイクルを考慮した環境負荷低減製品の生産に努めています。

FOUPオープナ KWFシリーズ



半導体製造工程でウェーハを収納した容器FOUPの開閉を行う装置です。

部品点数を削減することにより、従来機より15%の軽量化を実現しました。省電力に優れ、またデータバックアップ用バッテリーを無くし磁気性メモリーを活用することでデータの保存の信頼性を高めると同時に、メンテナンス性の向上、廃棄物削減にも寄与します。

ウェーハ真空搬送ロボット AR-Wn VDシリーズ



半導体生産工程に使うウェーハ搬送用ロボットです。磁性流体を削減することで、従来機と比較し、廃棄物を約65%削減しました。

ロボット本体に加え、コントローラーからもデータバックアップ用バッテリーを無くし、メンテナンス性の向上、廃棄物削減に寄与します。

環境保全に貢献できる製品づくりを

事業本部 装置事業部 松田 清二、酒井 哲也

開発時にはさまざまな問題に直面しましたが、試作段階から製造部門やメーカーと連携し、またお客さまともコミュニケーションを密にとることで対処しました。近年問題になっている製品に含まれる化学物質に対しても対応には設計者の意識や力量が求められます。地球環境保全に少しでも貢献できるよう、今後も環境配慮型製品づくりに努めます。



写真下：開発設計者
松田清二(左)、
酒井哲也(右)

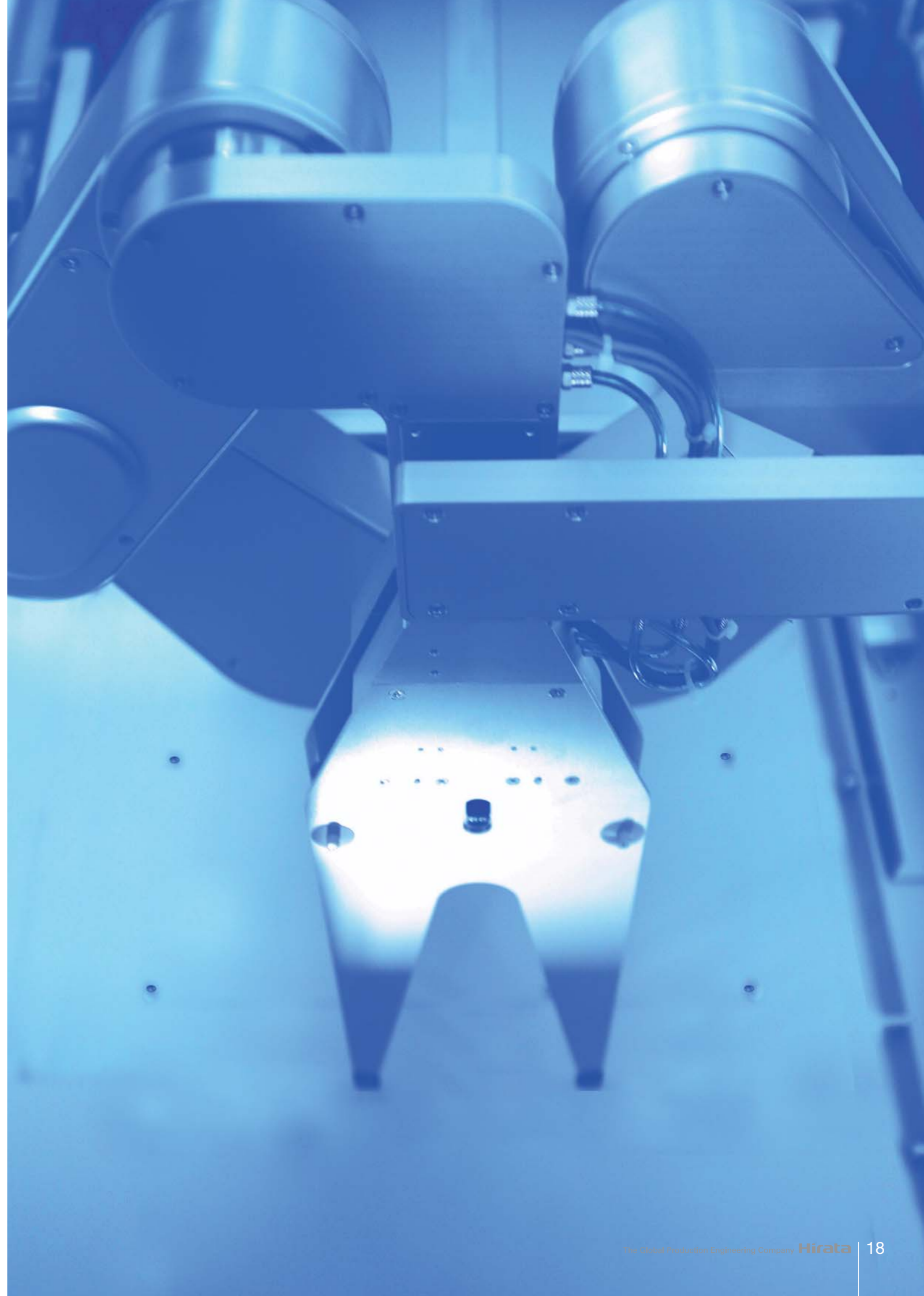
製品含有化学物質管理への対応

欧州RoHS指令^{(*)1}、REACH規則^{(*)2}などの国内外の化学物質関連法規制に対応するため、製品に含まれる化学物質の管理強化を進めています。2012年度は、2011年度に定めた製品含有化学物質管理手順

に基づき、顧客基準への対応を行いました。サプライチェーンにおける製品含有化学物質管理の徹底のため、今後も体制や運用の強化を図ります。

*1 RoHS指令：EUの有害物質規制

*2 REACH規則：EUの化学物質管理規制



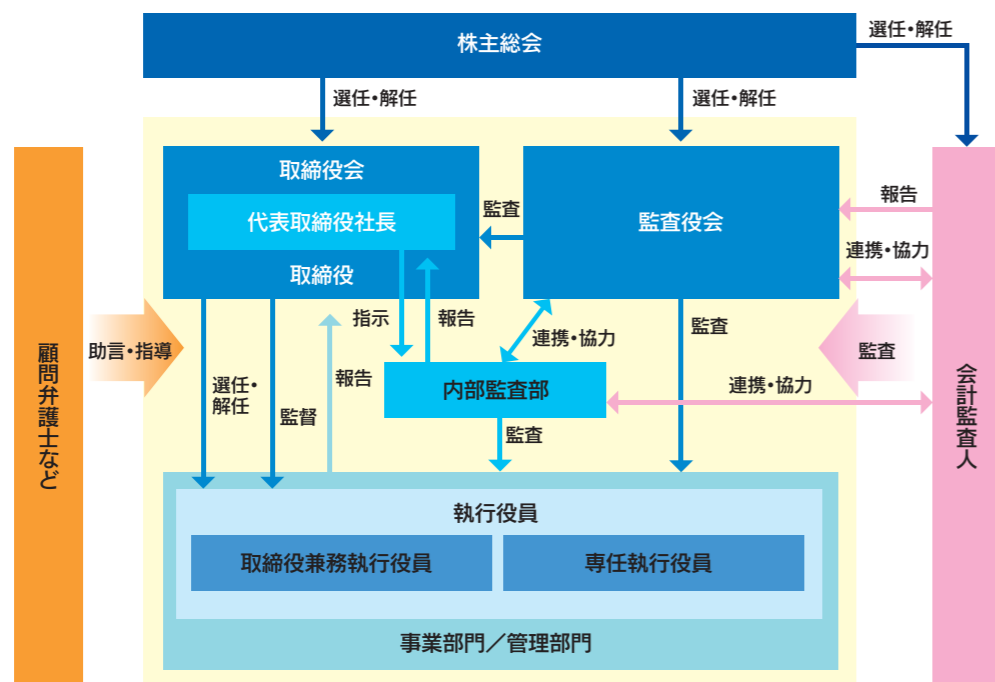
コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

平田機工は、世界市場をターゲットにした企業として、その社会的責任を果たすため、コーポレート・ガバナンスを重視した健全かつ効率的な経営活動を推進し、これにより、コンプライアンス体制を充実させるとともに、事業競争力を継続的に強化して、企業価値のさらなる向上を図っています。

また、企業は公共性、公益性、社会性を担った存在であるという立場から、平田機工を取り巻く全てのステークホルダーと円滑な関係を保っていくことが、長期的にも、株主利益の向上に繋がると考えています。

コーポレート・ガバナンス体制



平田機工は会社の意思を決定する最高意思決定機関である取締役会、取締役の職務執行状況の適正性を監査する監査役会に加え、主に以下の各機関により、コーポレート・ガバナンス体制を構築しています。代表取締役社長の直轄部門として設置した内部監査部は、監査役の連携・協力も得て、事業部門、管理部門の監査を実施しています。

また、平田機工は監査法人と監査契約を締結して会計監査を受けており、随時、会計上の重要課題につい

て相談の上、適切な処理方法についての助言を受けています。なお、コンプライアンス上の重要事項などにつきましては、必要に応じて顧問弁護士などに相談し、有用な助言を受けています。さらに、経営会議および執行役員制度を導入しています。執行役員は各責任分野における迅速かつ的確な業務執行を行うとともに、経営会議において業務執行に係る重要事項の審議に参画し、コーポレート・ガバナンスの強化を図っています。

コンプライアンス、企業倫理

コンプライアンス憲章

基本理念

平田機工株式会社およびグループ各社は、グローバルに活動する企業として国内外の関係法令、社会規範および社内規程に沿った公正性・透明性のある企業活動を行うため、「行動規範」を制定し、コンプライアンス(法令遵守)に取り組みます。

行動規範

私たちは、経営理念に基づき、お客様・株主・取引先・地域社会・従業員に対する企業としての使命と役割を自覚し、広く社会に貢献するために以下の行動規範をヒラタグループで働く全ての役職員に適用し、一人ひとりがしっかりと責任をもって維持・改善していきます。

1. 法令・ルールの遵守

私たちは、あらゆる企業活動において、関係法令および社内規程を常に遵守し、すべての企業活動が社会倫理に適合したものであるよう努めます。

2. 公平・公正な取引

私たちは、社会に役立つ最適・最良の製品・システムを開発・提供する企業として、顧客満足を優先し、取引先とは公平・公正かつ透明な関係を築きます。

3. 企業情報の開示

私たちは、株主・投資家の皆様に対し、会社の経営内容、事業活動状況などの企業情報の開示を関係法令に従って適時、適切かつ公平な方法により行います。未公表の会社情報(インサイダー情報)の取り扱いには十分注意し、また、その情報を利用した株式等の取引や第三者への利益供与、便宜供与は行いません。

4. 会社資産の適正な管理および使用

私たちは、会社の有形無形の資産を社内規程等に従い適正に管理し、私的用途に流用するなど、業務目的以外に使用しません。

5. 社会への貢献

私たちは、良き企業市民として地域社会に根ざした企業であるために、環境保護と再資源化に努め、積極的に地域社会の発展に貢献します。市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力・団体に対し毅然とした行動をとるものとし、一切の関係を遮断します。

6. 人間尊重

私たちは、一人ひとりの人権やプライバシー、人格・個性を尊重し、笑顔があふれる職場づくりを心がけます。

7. 機密情報・個人情報等の管理

私たちは、お客様の秘密情報はもちろん、会社の機密情報や個人情報を厳重に管理し、在職中のみならず退職後も、不正または不当に開示・漏洩しません。

8. 実践・報告の義務

私たちは、この行動規範に従い業務を遂行するとともに、行動規範の違反を察知した場合には速やかに報告します。その際、当該役職員は、報告を行ったことに対し不利益を受けることのないよう保護されます。

輸出管理

国際社会では、国際的脅威(テロ、核兵器開発など)の高まりを背景として、安全保障貿易管理の重要性がより高まっています。平田機工では、国際社会の一員として、国際的な平和および安全の維持に貢献するため、

外為法などの遵守と適切な輸出管理を目的とする「安全保障輸出管理規程」を制定、安全保障輸出管理体制を構築しています。

コンプライアンス教育

平田機工は、経営理念およびコンプライアンス憲章に基づき、国内外の関係法令、会社の諸規程その他社会的に要請される規範の遵守を徹底するために、従業員に対するさまざまな教育機会を設けています。全従業員に対しコンプライアンスの必要性や考え方に関する基礎的な教育を実施する他、法令や当社諸制度の改正を踏まえながら、下請法、腐敗防止、輸出管理、機密管理、インサイダー取引防止、労務管理、労働安全、環境保全などの各種のテーマについて、階層別・部門別にプログラムを設けています。

これらの教育については、能力開発プランの一部であり、個人ごとに履修記録が保管されています。また、

コンプライアンスに関する懸念事案が発生した際には、都度、関係者に対して教育を行い、コンプライアンスに関する意識の向上に努め、再発防止につなげていきます。



下請法教育活動の様子

「ヒラタヘルプライン」は、匿名での通報を原則としており、通報を行った者が、通報によって報復を受けることがないようにしています。通報内容や、調査結果については、コンプライアンス委員会に報告されます。

ヘルプライン

平田機工は、「行動規範」に基づき、従業員が法令・社内規則違反のおそれに関する問題を通報し、法令・社内規則違反の潜在的なリスクに対して早期に対処するために、2008年5月から社外通報窓口(ヒラタヘルプライン)を設置しています。

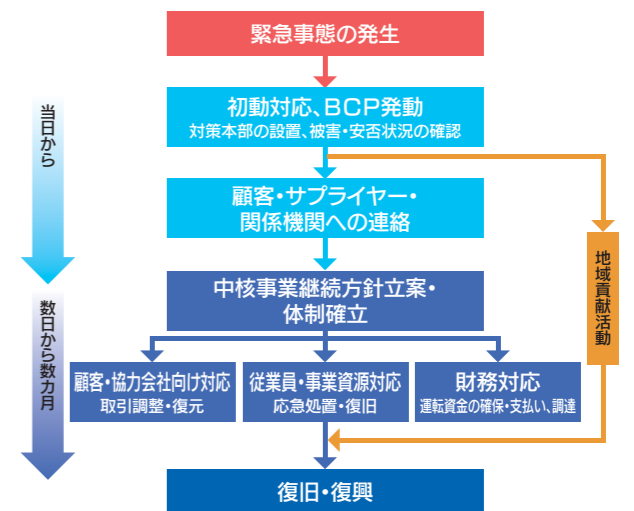
リスクマネジメント

BCP(事業継続計画)

予期せぬ災害や問題が事業の継続を危うくするような事態を避けるために、事前に想定されるリスクを抽出し、そのリスクの防止、防衛、低減を図ることで事業継続、さらにお客さまへのリスクを緩和するとともに短期間での事業回復を図ります。

- いかなる災害に被災しても事業の復旧を優先させお客さまおよび地域の要求に応えます。
 - 何かの事象(災害、予期せぬこと)が起こる前に、中核事業に大きな影響を与えると予測されるリスクへの予測とその予防および復旧計画を立て、防災訓練、BCP訓練を通してその実践を継続します。
 - 平常時において、緊急事態や災害時に実践する活動計画を明確にして従業員へ訓練して備えます。
- また、災害時の従業員の安否確認はBCPの取り組みとしての最優先項目です。平田機工は、この安否確認を迅速かつ効率的に行うために、社外の安否確認システムを導入しています。

これにより、社外や遠隔地からでも安否確認のメール配信および集計結果を確認することができます。なお、従業員が迅速に対応できるよう、定期的に訓練としてテスト配信を行っています。



情報セキュリティ

■情報セキュリティ委員会の役割と機能

平田機工は、情報および情報機器などの情報資産を漏洩や損害などの脅威から保護し、経営活動を安全に行うため、情報セキュリティ管理規程を整備するとともに情報セキュリティ委員会を中心とした管理体制を構築して、機密事項漏洩などの未然防止に努めています。

■情報セキュリティに関する主な管理事例

- メールやインターネットの利用についてログの記録やアクセス制限などを行うとともに、ファイル共有ソ

フトなど、危険性のあるソフトウェアのインストールは禁止しています。

- 個人認証に使用するパスワードは定期的な変更を義務付け、期限間近になった場合は、個人ごとに変更案内を通知しています。
- バックアップ用ファイルサーバーは平田機工の主要拠点以外の地区に置き、地震などの災害発生時の重要データ損失を回避しています。